



生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
肝臓、中枢神経系、腎臓、呼吸器系の障害  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による神経系、呼吸器系の障害  
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ  
水生生物に非常に強い毒性  
長期継続的影響によって水生生物に有害

## [注意書き]

**安全対策** : 医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルを持っていくこと。  
子供の手の届かないところに置くこと  
使用前にラベルをよく読むこと  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
眼、皮膚、衣類につけないこと。  
取扱い後はをよく全身を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

## 応急措置

**吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に連絡すること。特別な処置が必要である。

**飲み込んだ場合** : 口をすすぐこと。  
無理に吐かせないこと。

**皮膚に付着した場** : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
多量の水／石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診察／手当を受けること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

**眼に入った場合** : 水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。

**保管** : 施錠して保管すること。  
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
涼しいところに置くこと。

廃棄 : 内容物／容器を廃棄する場合には、該当法規に従い、都道府県知事に許可された廃棄物処理業者に委託し、適切に廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名	含有率(%)	官報公示整理番号 (化審法)	CAS No.
すず及びその化合物	約20.0	2-2330	非公開
キシレン	約39.0	3-3	1330-20-7
エチルベンゼン	約36.0	3-28	100-41-4
プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート	約5.0	2-3144	108-65-6

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
多量の水／石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
無理に吐かせないこと。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、乾燥砂など
- 使ってはならない消火剤 : 火災を拡大する可能性のある放水 (棒状水など)

### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 保護具及び緊急時措置 : 作業の際には保護具を着用し、皮膚に付着したり吸入しないようにする。
- 環境に対する注意事項 : 環境への影響を起こさないよう、河川などに排出しない。
- 封じ込め及び浄化の  
方法及び機材 : 漏れた液やこぼれた液を、密閉式の容器にできる限り集める。  
残留液を、砂又は不活性吸収剤に吸収させる。
- 回収、中和などの浄化の  
方法及び機材 : 空容器に回収する。大量の場合は拡散防止を図る。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い  
技術的対策 : 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項 : 眼、皮膚との接触を避けること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出は避けること。

取り扱い後はよく全身を洗うこと。

接触回避すべき化学物質：酸化剤ならびに酸化作用の強い物質。

#### 保管

- 安全な保管条件：保管場所は耐火構造とし、屋根を不燃材料で作り天井を設けない。  
保管場所の床は水が浸入、浸透しない構造とする。  
換気の良い場所で保管すること。  
涼しいところに置くこと。  
施錠して保管すること。  
雨露を避け、風通しの良い湿度の少ない屋内で保管すること。  
水濡れの危険のある床面では直置きを避け、パレットなど架台を用いる。
- 安全な容器包装材料：製品の移動は容器に入れたままの状態で行う。  
落下や他の器物に当てるなど容器を破らないように慎重に扱うこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

#### 管理濃度

##### 作業環境評価基準

キシレン：50ppm

エチルベンゼン：20ppm

#### 許容濃度

##### 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告

キシレン：OEL-M 50ppm(217mg/m<sup>3</sup>)

エチルベンゼン：OEL-M 50ppm(217mg/m<sup>3</sup>)

#### 設備対策

- ：取扱い場所には全体換気装置を設置する。  
できるだけ密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。  
取扱場所の近くに洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。

#### 保護具

- 呼吸器の保護具：防毒マスク(有機ガス用など)  
密閉された場所では送気マスクなど
- 手の保護具：不浸透手袋
- 眼・顔面の保護具：普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型の保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具：肌を露出しない保護服、保護長靴、保護前掛け等

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態：液体
- 色：淡黄色透明
- 臭い：溶剤臭
- 融点／凝固点：データなし
- 沸点又は初留点及び沸点範囲：データなし
- 可燃性：あり



キシレン	—	—	—	区分1B	区分1 肝臓、中枢神経系、 腎臓、呼吸器系 区分3 気道刺激性	区分1 神経系、呼吸器系	区分1
エチルベンゼン	—	—	区分2	区分1B	区分3 気道刺激性、麻酔 作用	区分2 聴覚器	区分1
プロピレングリコール/メチルエーテルエーテル	—	—	—	—	区分3 麻酔作用	—	—

※ —：区分に該当しない又は分類できない

## 1 2. 環境影響情報

[製品・成分]

製品・成分名	生体毒性		残留性・分解性	生体蓄積性	土壌中の移動性	オゾン層への有害性
	短期（急性）	長期（慢性）				
製品	区分1	区分3	—	—	—	—
すずおよびその化合物	区分1	区分1	—	—	—	—
キシレン	区分2	区分2	—	—	—	—
エチルベンゼン	—	—	—	—	—	—
プロピレングリコール/メチルエーテルエーテル	—	—	—	—	—	—

※ —：区分に該当しない又は分類できない

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者及び処分業者と契約し、廃棄物処理法及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

汚染容器及び包装：空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者及び処分業者と契約し、廃棄物処理法及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

## 1 4. 輸送上の注意主

国連番号：1866  
 品名（国連輸送名）：Resin solution  
 国連分類（輸送における危険有害性クラス）：3  
 容器等級：III  
 海洋汚染物質（該非）：該当

国内規制

指針番号：128

その他の情報：運搬に関しては容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

移送時にイエローカードの保持が必要である。食料や飼料と一緒に輸送してはならない。

## 1 5. 適用法令

化学物質把握管理促進法（PRTR 制度）

第1種指定化学物質

キシレン、エチルベンゼン、有機すず化合物

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

キシレン、エチルベンゼン、有機すず化合物

労働安全衛生法施行令

別表第一（危険物）引火性の物

有機溶剤中毒予防規則

第2種有機溶剤

特定化学物質障害予防規則

第2類物質

エチルベンゼン

化審法

優先評価化学物質

エチルベンゼン

消防法

第4類引火性液体 第2石油類非水溶性液体 危険等級Ⅲ

船舶安全法

危規則第2、3条危険物告示別表第1：引火性液体類

航空法

施行規則第194条危険物告示別表第1：引火性液体

海洋汚染防止法

海洋汚染物質・個品運送

## 16. その他の情報

- ・この SDS は JIS Z 7253 に準拠し作成しております。
- ・記載事項は作成時点で入手した最新情報をもとにしていますが、その正確性または完全性を保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・記載事項は通常の取扱いを対象とするものですので、指定された用途・用法以外に使用しないでください。
- ・使用者においては、安全と健康及び環境保護を確実にを行うため、この SDS の情報に加え自ら収集された情報を合わせて、その適合性と完全性をご判断ください。
- ・この SDS は日本国内においてのみ適用するものとします。